



# 未来の子どもたちのために 桑原としひこ通信

討議資料

令和3年(2021年)1月2日発行 Vol.15

## 夢を 実行する！

### 新年のご挨拶

昨年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により大変厳しい一年になりました。感染への不安や緊張の中、医療・福祉をはじめ地域の安全安心を守るためのお仕事に従事されている皆さまに心より感謝申し上げます。本年はこの苦難を乗り越え、明るく笑顔に満ちた年にする為、ポストコロナ時代の流れに乗り遅れることなく、ピンチをチャンスに変え活力ある沼田市を創っていきたくと思います。本年もよろしくお願いいたします。

沼田市議会議員 **桑原 敏彦**



絵花シリーズ⑮

今回の絵はクリスマスローズを描きました。花言葉は「不安を除去く」です。コロナの不安を一日も早く取除けるよう頑張ります！

## 令和2年 一般質問

### コロナ終息後の経済復興と今後のまちづくり(6月議会)

**Q**ふるさと沼田の観光業復興のため、準市民など縁のある方へ案内を送付し、一部の旅費等を負担、企業と連携して呼び掛けしていく「ふるさと沼田・里帰り観光」の実施について伺います。  
**A**自粛が解かれたときに、最初の旅行先にする方々を選ぶ人も少なくないと思われます。今後、国が行う旅行商品の割引キャンペーン等に合わせ、準市民の方々の案内を行うなど、誘客を図っていきたくと考えています。

**Q**地方において外国人材の労働力が遮断された時に備え、地域間や異業種間での仕事の連携組織を作るべきです。  
**A**従業員を休職させざるを得ない事業者と、人材を必要とする事業者が連携し、双方の経済活動の継続、雇用の維持が図られるようマッチングされることが解決の糸口になると捉えています。関係機関と課題を共有しながら、情報収集と調査研究を進めていきたくと考えています。  
**Q**コロナ感染症の影響で地方に転職したいという意識が都市部の若者に広がっています。沼田

### 外国人労働者の活躍を活かしたまちづくり(3月議会)

**Q**沼田市の活性化に、外国人労働者の活躍を活かしたまちづくりの実現は必要と考えます。外国人労働者の受け入れセミナー等の開催促進について伺います。  
**A**群馬労働局及び県では、事業主等を対象に外国人労働者の適正な管理と労働条件の確保に関するセミナー等を開催しています。関係機関と連携を図りながら、情報共有等を行っていきたくと考えています。  
**Q**外国人労働者受入れの相談窓口開設について伺います。  
**A**「ぐんま外国人総合相談ワンストップセンター」をはじめ、前橋市ほか6市1町に設置されています。ハローワーク等と連携を図っていきたくと考えています。

**Q**外国人労働者が地域に参画し、住民と共生していける社会をつくり、外国人労働者を選ばれるまちづくりが必要と考えます。外国人労働者の地域への参画と支援について伺います。  
**A**地方創生交付金を活用した地



### 今後発展する地域活性化の取組(12月議会)

**Q**中心市街地の新たな地域ブランドとして、今後、大正ロマンをどのように進め、商店街の活性化に繋げていくか伺います。  
**A**中心市街地への歴史的建物の移転、集約、集客イベントは、活性化に有意義と考えています。今後は、地域団体や商店街等の事業として歴史的建築物、大正ロマンと連携した事業展開が図られていくことを期待しています。

**Q**薄根地区では、地域全体の経済的・社会的な活性化を目的に「薄根地域ふるさと創生推進協議会」を立ち上げました。この取組を成功させるには行政との連携は必須で、更にこの取組を各地域に広げることも重要です。地域活性化への行政連携及びその推進について伺います。  
**A**移住者・移住希望者と行政を繋ぐ地域の方々による受入団体の必要性、重要性も強く認識しています。今後は、地域の活性化はもとより、移住や観光人口、関係人口の増に繋がる支援を行っていきたくと考えています。  
**Q**地域協議会等の取組を進展させるには、事業主体が自立し、

### 沼田市への移住促進と新たな観光計画(9月議会)

**Q**新型コロナウイルス感染症により、生活のあり方が大きく変わるうとしています。都会からの移住を希望している方々や企業に対し、積極的な情報発信をしていくべきです。沼田市への移住、二地域居住の拡充について伺います。  
**A**地域資源などを活用した体験ツアーや、首都圏での移住相談会への参加により、移住や二地域居住促進に取り組んでいます。直接対面することなく相談業務を行うことができる「オンライン移住相談」の準備を進めており、従来の施策と組み合わせ、さらに事業の推進を図っていきたくと考えています。

**Q**長引くコロナ感染症の影響から観光業等が一日も早く正常な経営に戻るために、観光協会、旅行会社、宿泊施設、飲食店、物産店が連携する地域観光の総合商品化が求められます。新たな提案を打ち出し、実現するための組織強化について伺います。  
**A**厳しい経営状況から元に戻すために、提案のような観光協会や関係事業者が連携し、コ



## 薄根地区での取り組み

### 薄根地域ふるさと推進協議会の取組み



稲刈り体験



収穫祭

### 取れたコメパエリアに

薄根地区  
収穫祭

沼田市薄根地区の活性化に取り組む薄根地域ふるさと創生推進協議会(小池大介会長)は25日、同市石墨町の古民家「くわのみハウス」で収穫祭を開き、県内外の5家族15人や地元住民が参加した。



上毛新聞 R2年10月26日掲載

### 石墨町の棚田で農業用ドローンを使い種まき(播種)の実証実験を行いました。結果は見事に成功し、稲は均等に発芽しました。



▽庭野社長は「中山間地域には荒れた農地もある。最先端技術で効率化することで、農業を守ることもあるのではないか」と期待した。

▽沼田市の利根沼田テクノアカデミー(桑原敏彦校長)と、ブランド米栽培などを手掛ける稲垣ファーム(庭野正幸社長)は28日、同市石墨町の棚田で、産業用ドローンを使った農業散布と種まきの実験を行った。写真。地元農家40人が最先端技術を用いた農業の可能性を探った。

上毛新聞 R2年7月29日掲載

# 「ものづくりにこだわったまちづくり」

廃校を活用して立ち上げた「利根沼田テクノアカデミー」は今年で6年目を迎えました。南郷の職人育成塾では延べ94人が訓練を終了し、それぞれの職場で働いています。また、平川でのドローン技能訓練校では延べ300人の方々が受講しました。本年はドローンの活用を建設業界だけでなく、農業分野にも広げドローンによる農業散布や種まき(播種)などの技術指導も行い、農家の皆さんの生産性向上に役立つよう邁進していきます。

## 6年目を迎えた

# 利根沼田テクノアカデミー

●職人育成と地域活性化を目指して！

訓練は追い込みです。溶接訓練、外壁訓練、雨樋訓練、更には大工コースが作った建屋の屋根を仕上げます。この頃になるとハサミの使い方を覚え、見事に屋根を仕上げる事ができます。そして実践的な体験訓練を行う為、テクノアカデミーでは行政と話し合い沼田市の学校や地域の必要とされている施設の修繕を、奉仕訓練として毎年施工をさせていた

ています。訓練生は失敗の許されない訓練を初めて仕事として体験し、緊張感のある訓練を毎年経験してアカデミーを卒業します。3か月間の訓練はプロの技術は習得できま

すが、卒業生は自社に帰る職人として一杯働いていると思います。今後も若者が板金業という「職人」を目指すよう努力していきます。

●外国人技能実習生に必要時代となった！

現在日本に約36万6千人、その内建設業界では76万人の外国人技能実習生が働いていま

す。今までは3年間の技能実習が終了すると母国に帰国しましたが、近年法律が改正さ

れ3年目に日本人と同等の3級技能検定試験を受ける義務が発生しました。この3級技能検定に合格すれば滞在期間が2年延長され、実習生の技能・技術が向上され、受け入れて

いる企業(板金店)にとってもプラスに転じます。そこで利根沼田テクノアカデミーでは、外国人材に向けたこの3級技能検定試験の技術指導を行う事を現在計画しています。

日本の板金業で働く外国人技能実習生が安心して働き、3年後には技能検定に合格して日本そして母国で活躍できる一助になればと考えています。

全板新聞 R2年12月1日掲載

沼田市の廃校を活用して立ち上げた「利根沼田テクノアカデミー」は今年で6年目を迎えました。南郷の職人育成塾では延べ94人が訓練を終了し、それぞれの職場で働いています。また、平川でのドローン技能訓練校では延べ300人の方々が受講しました。本年はドローンの活用を建設業界だけでなく、農業分野にも広げドローンによる農業散布や種まき(播種)などの技術指導も行い、農家の皆さんの生産性向上に役立つよう邁進していきます。

フォームに取入れるため！人口減少が進む中、4年前沼田市では2つの小学校が廃校となり、利根沼田テクノアカデミーはドローン操縦訓練校を立ち上げました。その目的は建設業界にドローンを取り入れるため、板金業の営業戦略にいち早くドローンを取入れ屋根リフォームなど、お客様にその場で見える映像を通し安心感を与え、更には職人育成塾で習得した技術の信頼性をお客様に見ていただくためです。ドローン訓練は延べ300人が受講し、地元消防団や防災士、更にはスマート農業を目指す農家の方々も受講しています。今後ドローンが板金業の生産性向上に役立つ事を期待しています。

外国人材に向けたこの3級技能検定試験の技術指導を行う事を現在計画しています。日本の板金業で働く外国人技能実習生が安心して働き、3年後には技能検定に合格して日本そして母国で活躍できる一助になればと考えています。

全板新聞 R2年12月1日掲載

業界では全国的に外壁職人が不足している中、アカデミーでは製造メーカーと連携し、昨年度「外壁コース」を立ち上げました。

メーカと訓練生が連携 建物外壁工育成、コース新設

沼田市利根町の建設職人短期育成校「利根沼田テクノアカデミー」(桑原敏彦校長)は南郷職人育成校(旧南郷小学校)で建物の外壁を製造しているメーカーと、販売を手掛ける商社と訓練生が連携した外壁コースを立ち上げた。6月4日に座学を行い、5日は実技を行った。

近年の建物は、物流倉庫などの大型建物が主流となり、材料も今までにない特殊な材料が使われていることもあり、建設業界では担い手が不足しているため、大型建物を施工する人材が少なく、人材育成に向けてメーカーと訓練生が連携することになった。材料の外壁はすべてメーカーが用意した。

外壁訓練には商社の日鉄物産と材料を提供した建材メーカーの日鉄鋼板(東京都)の社員が指導した。訓練生8人は材料の切断法、組み立て方などを指示通りに行っていた。桑原校長は「人材不足の外壁工事の育成を行い、さらに工法についてはメーカー認定の施工認定制度として認められるようにしたい」と話していた。

週間利根 R2年6月14日掲載

訓練は追い込みです。溶接訓練、外壁訓練、雨樋訓練、更には大工コースが作った建屋の屋根を仕上げます。この頃になるとハサミの使い方を覚え、見事に屋根を仕上げる事ができます。そして実践的な体験訓練を行う為、テクノアカデミーでは行政と話し合い沼田市の学校や地域の必要とされている施設の修繕を、奉仕訓練として毎年施工をさせていた

ています。訓練生は失敗の許されない訓練を初めて仕事として体験し、緊張感のある訓練を毎年経験してアカデミーを卒業します。3か月間の訓練はプロの技術は習得できま

すが、卒業生は自社に帰る職人として一杯働いていると思います。今後も若者が板金業という「職人」を目指すよう努力していきます。

●外国人技能実習生に必要時代となった！

現在日本に約36万6千人、その内建設業界では76万人の外国人技能実習生が働いていま

す。今までは3年間の技能実習が終了すると母国に帰国しましたが、近年法律が改正さ

れ3年目に日本人と同等の3級技能検定試験を受ける義務が発生しました。この3級技能検定に合格すれば滞在期間が2年延長され、実習生の技能・技術が向上され、受け入れて

いる企業(板金店)にとってもプラスに転じます。そこで利根沼田テクノアカデミーでは、外国人材に向けたこの3級技能検定試験の技術指導を行う事を現在計画しています。

日本の板金業で働く外国人技能実習生が安心して働き、3年後には技能検定に合格して日本そして母国で活躍できる一助になればと考えています。

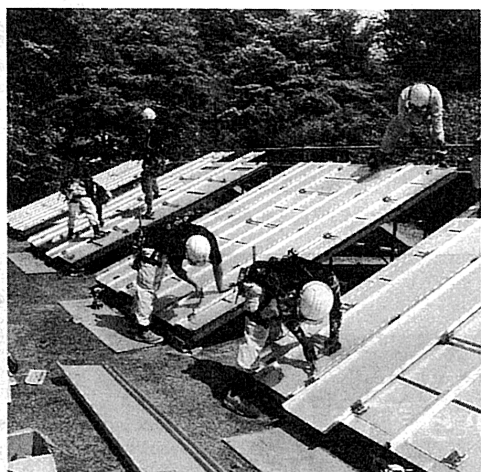
全板新聞 R2年12月1日掲載



横葺き訓練



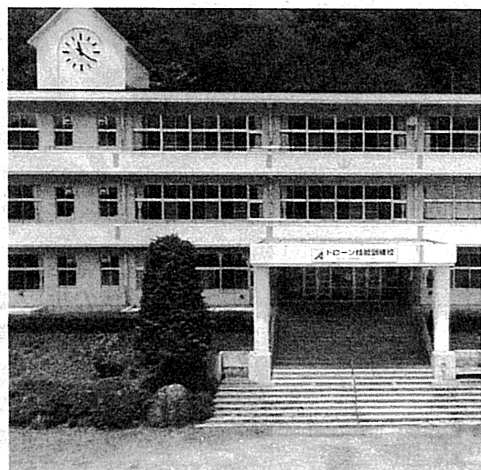
建屋屋根伏せ訓練



瓦葺き訓練



ドローンを使った消防訓練

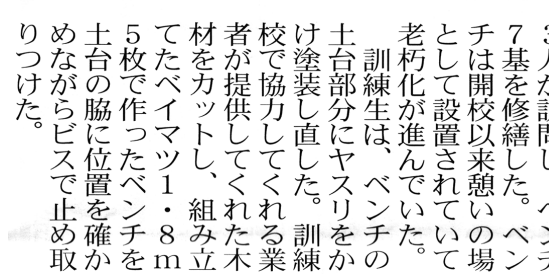


ドローン操縦訓練校

昨年の奉仕訓練は沼田東中のベンチの修繕、薄根小の玄関入り口のタイル修繕、南郷地区のゴミステーションの修繕工事を行いました。訓練生にとっては失敗の許されない訓練であり、卒業前の実のある経験となりました。



利根町南郷の建設職人短期育成訓練校「利根沼田テクノアカデミー」(桑原敏彦校長)の訓練生が6月22日、沼田東中庭のベンチ改修や、薄根小玄関のタイル補修、沼田地区では踏切板の交換、南郷地区では板金工8人の訓練生が3人が訪問し、ベンチ7基を修繕した。ベンチは開校以来憩いの場として設置されていた。老朽化が進んでいた。訓練生は、ベンチの土台部分にヤスリをかけ塗装し直した。訓練校で協力してくれる業者が提供してくれた木材を力ツトし、組み立てたベンチ1・8m5枚で作ったベンチを土台の脇に位置を確かめながらビスで止め取



根岸校長は「開校以来使っていて痛んでいた。いこの場なので生徒も喜んでもらえると思う。訓練生や学校に感謝します」と話した。訓練を終え自社に戻る訓練生は「奉仕作業ができて良かった。良い思い出になりました」と話していた。



【東中でのベンチの修復作業】左は薄根小北校舎玄関内外のタイル張り替え。左官訓練生が実施した。

コロナ禍で発令された緊急事態宣言時に、自宅や企業で待機する子どもたちのために、手作りのシーソーを50台作りプレゼントしました。



訓練生は長さ2mの木の板に穴をあけたり手すりを付け色を塗り仕上げた。シーソーは50台製作し、一般市民や各企業など先着順に渡す。桑原校長は「活用してもらい、少しでも力になればと思う」と話している。【訓練生のシーソー作り】提供

週間利根 R2年5月17日掲載



利根沼田テクノアカデミー訓練生「シーソー」製作 市民に寄贈

沼田市利根町の建設職人短期育成校「利根沼田テクノアカデミー」(桑原敏彦校長)の訓練生18人は5月18日シーソー作りを行った。コロナ感染拡大防止により緊急事態宣言発令に伴い学校や幼稚園の休業により自宅や企業で待機している子どもたちにおもちゃを無料で贈り楽しんでもらうという。

今年度同校の訓練に参加している企業に協賛してもらいその協賛金で資材を調達し、訓練生がシーソーを製作するという。